

地域金融機関が観光客誘致で工夫を競っている。他地域の事業者と組むことで人の流れを生み出して地域の雇用を増やし、融資を伸ばす狙いだ。

大分銀行と宮崎銀行は大分、宮崎両県やJCBなどと協力して観光周遊ルートを開発する。北九州から大分を経由して宮崎に至る東九州自動車道が4月に開通。免税施設も整備し、熊本地震で落ち込んだ海外からの観光客を呼び戻す。

今秋には台北桃園空港と宮崎空港発着で大分・宮崎に2泊ずつする4泊5日のバスツアーを計画中だ。両県が地方創生の観点から宿泊施設や立ち寄り先の選定方針を決め、各市町村と交渉する。地方銀行は地元企業との折衝や観光地のインフラ整備を担う。大分は昨年、台湾の台中市と観光友好協定を締結。J

観光客誘致、県越えタッグ

大分・宮崎銀など、融資増へ地元活性化

C Bは台湾に約290万人の会員を持つ。今後は台湾以外に対象を広げることも検討する。

各地で「たかしん」の略称で呼ばれる高岡信用金庫（富山県高岡市）や高山信用金庫（岐阜県高山市）など5信金は地域経済の活性化で協力する。個人顧客が対象の年金旅行の行き先を各地の「たかしん」の地盤エリアにする。高松信用金庫（高松市）、高崎信用金庫（群馬県高崎市）、高鍋信用金庫（宮崎県高鍋町）も参加する。

八十二銀行が開発した基幹系システムを地銀7行で共同利用する「じゅうだん会」は8月末までに一定額以上の預金や投資信託などを購入した人に加盟行の地盤への旅行を抽選で贈る。武蔵野銀行、琉球銀行なども含めた7行が商品のキャンペーンで協力するのは初めてだ。